

全国

ぜんこく
しぎかいじゅんぽう

平成19年 12月15日
(2007年)
毎月3回5の日に発行

第1673号
定価 1部20円

発行 全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
旬報 TEL 03(3262)2309
発行人 大竹 邦実

<http://www.si-gichokai.gr.jp>

市議會旬報

一般財源の充実確保求め

国対・地財委が実行運動

本会の国会対策委員会（委員長＝鏑木茂哉・川崎市議会議
 長）と地方財政委員会正副委員長（委員長＝高橋芳治・南丹
 市議会議長）は12月4日と5日に合同で、平成20年度地方税
 財政に関する実行運動を精力的に展開。重点要望として地方
 税をはじめとする一般財源の充実確保などを求め、政府・与
 党関係者に面談、要望した。

重点要望は、12月3日に開かれた国会対策委員会に取りまとめたもの2面掲載。地

開するため、明年度政府予算を編成するに当たり地方に配慮すべき項目を盛り込んだ。

け、未曾有の財政危機に直面している地方財政の現状を打

会と地方財政委員会正副委員
長は合同で実行運動班を編

なお政府は12月4日、経済
財政諮問会議（議長＝福田康

額賀財務相(左)と面談する実行運動班

め検討する」とされた。同方針を踏まえ財務省は今後、予算編成作業を本格化させる。実行運動を行ったメンバーは次のとおり。

【国会対策委員会】

市▽委員長≡鐫木茂哉(川崎市)▽副委員長≡奥谷進(青森市)▽星秀雄(江別市)▽藤原良範(能代市)▽松田信子(大野市)▽青木克喜(大和市)▽平野晋一(行方市)▽村田一郎(船橋市)▽松本定(高石市)▽内海貴夫(京都市)▽加藤弘道(福知山市)▽西本和明(御坊市)▽西川健三(大竹市)▽井口嘉生(大川市)

【地方財政委員会】

▽委員長≧高橋芳治(南丹市)
▽副委員長≧玉手安博(角田市)
▽同≧田口桂一郎(浅口市)

面談要望先

【政府】

▽額賀福志郎・財務大臣▽森山裕・財務副大臣▽小泉昭男・財務大臣政務官▽甘利明・經濟産業大臣▽二之湯智・総務大臣政務官

【自由民主党】

▽谷垣禎一・政務調査会長▽

【公明党】

▽齊藤鉄夫・政務調査会長

- ・ 二階俊博・総務会長▽尾辻秀久・参議院議員会長▽山崎正昭・参議院幹事長▽津島雄二
- ・ 税制調査会長▽大野功統・税制調査会副会長▽中山成彬
- ・ 税制調査会副会長▽尾身幸次・税制調査会副会長▽増原義剛・税制調査会幹事

予算編成に向け要望

本会委員会開く

前号に引き続き、本会の地方財政・建設運輸・国会対策の3委員会の会議概要を掲載します。

地方財政委員会

地方財政委員会(委員長 高橋芳治・南丹市議会議長)は11月30日、東京・全国都市会館で委員会を開き、平成20年度地方税財政対策についての要望を決定した。

要望事項は次のとおり。

① 地方交付税の増額と機能の強化 ② 地方交付税の増額、財源保障機能及び財政調整機能の強化など ③ 都市税源等の充実強化 ④ 偏在性の少ない税体系の構築、都市税源の充実強化、地方道路目的財源の充実強化など ⑤ 地方債資金の所要額の確保等 ⑥ 地方債資金の所要額の確保、公債費負担対策の拡充など ⑦ 地方公営企業の経営健全化等 ⑧ 公営企業繰出金の所要額確保等、地方公営企業に対する財政措置の充実強化 ⑨ 国庫補助負担金の整理合理化 ⑩ 国庫補助負担金の削減など。

これら要望の実現に向け、

高橋委員長、玉手安博副委員長(角田市議会議長)、田口桂一郎副委員長(浅口市議会議長)は、12月4日と5日に行われた国会対策委員会と合同の地方税財政に関する実行運動に参加した。1面掲載。委員会当日は、総務省自治財政局の佐藤文俊・財政課長

建設運輸委員会

建設運輸委員会は11月30日、東京・全国都市会館で委員会を開き、欠員となっていた委員長に佐藤栄一・妙高市議会議長を選任したのち、「道路特定財源の確保を求め



佐藤栄一・建設運輸委員長(妙高市議長)



山崎参議院幹事長(中央)に要望



林筆頭副幹事長(中央)に要望

国会対策委員会

国会対策委員会(委員長 鍋木茂哉・川崎市議会議長)は12月3日、東京・日本都市センター会館で委員会を開き、「平成20年度政府予算並びに施策に関する要望」「平成20年度地方税財政対策に関する重点要望」を決定した。予算並びに施策に関する要望には▽基地対策関係予算の確保等▽地域医療保健施策の充実▽自然災害対策の推進―など本会の各委員会から要請された事項や、11月9日の評議員会で可決された決議等



あいさつする高橋地財委員長



伊吹幹事長(右から2人目)に要望

を含む合計36項目を掲げた。重点要望には① 地方交付税の増額② 財源保障機能及び財政調整機能の強化③ 消費税等の税源移譲などによる偏在性

の少ない税体系の構築④ 地方道路目的財源の充実強化―の4項目を盛り込んだ。会議終了後、鍋木委員長、奥谷進副委員長(青森市議会議長)、内海貴夫委員(京都市議会議長)は自民党の伊吹文明・幹事長に面談、要望した。

当日は、総務省自治税務局の境勉・企画課企画官が「地方税制の現状と課題」について説明した。

なお、同委員会は12月4日と5日、地方税財政に関する実行運動を行った。1面掲載。

準維持▽地方への配分割合を高めるなど地方における道路特定財源の充実―などを盛り込んだ。

20年度の要望事項は次のとおり。① 交通ネットワーク整備の推進 ② 道路、新幹線鉄道の整備促進など ③ 自然災害対策の推進 ④ 地震・津波対策など ⑤ 都市基盤整備の推進 ⑥ 中心市街地活性化の推進など ⑦ 観光立国の推進 ⑧ 「一地域一観光」の推進など。

会議終了後、佐藤委員長、船曳順市副委員長(宍粟市議

会議長)、寺澤優國副委員長(松浦市議会議長)、山川豊委員(あわら市議会議長)、銚子市の岩井文男議長は、自民党の山崎正昭・参議院幹事長、林幹雄・筆頭副幹事長に面談、要望した。

当日は、内閣府の上杉耕二・災害応急対策担当参事官が「新潟県中越沖地震に対する政府の対応」、国土交通省総合政策局の武田一寧・観光地域振興課長補佐が「観光立国推進政策」について、それぞれ説明した。

国保制度の改善を 全国大会開き決議



あいさつする野村社会文教
委員長（阿南市議会議長）

本会ははじめ地方六団体や国民健康保険中央会など関係9団体は11月29日、東京・明治神宮会館で「国保制度改善強

化全国大会」を開催した。国民健康保険については、高齢化の進展による医療費の増大等により、市町村で一般

会計から国保特別会計へ多額の繰り入れを余儀なくされるなど大変厳しい状況にある。そこで大会では、当面する諸問題の改善のため、▽医療保険制度一本化の実現▽国保財政基盤強化策の拡充強化▽診療報酬体系の合理化の推進▽後期高齢者の特性に配慮した報酬体系の確立——などを求める決議を採択した。

大会には全国から関係者約1500人が参加。本会を代表して出席した野村栄・社会文教委員長、阿南市議会議長は議長団に選出されるとともに、閉会式ではあいさつを述べ大会を締めくくった。

暫定税率の現行維持を

高速協が緊急要望

全国高速自動車道市議会協議会（会長＝秋山正・倉敷市議会議長）は12月4日、道路特定財源の確保を求める緊急要望を実施した。

現在、政府で審議されている道路特定財源の見直しの中で、来春に適用期限が切れる暫定税率の動向が焦点となっている。併せて、揮発油税の

一部を地方に配分する地方道路整備臨時交付金の補助率引き上げや、同交付金の地方への配分率の引き上げなども議論されている。

このため同協議会では▽暫定税率の現行水準維持▽道路特定財源の地方への配分割合引き上げ——などを求め、秋山会長と理事の中村孝純・三

郷市議会議長による実行運動を展開。江田五月・参議院議長、伊達忠一・自民党国土交通副部長・参議院副幹事長、大江康弘・参議院国土交通委員会理事・民主党道路特定財源に関する小委員会座長、後藤斎・衆議院国土交通委員会理事に面談、要望した。

なお、政府・与党は12月7日、▽20年度以降10年間の暫定税率の現行水準維持▽地方道路整備臨時交付金の制度改善——などを盛り込んだ「道路特定財源の見直し」を合意。これに基づき年内に「中



江田参議院議長(右)に要望



伊達国土交通副会長(左)に要望

期計画」を策定し、関連法案を次期通常国会に提出する。

全国市議会事務局職員研修会

1月24・25日 東京・砂防会館で開催

全国市議会議長会は、「第55回全国市議会事務局職員研修会」を平成20年1月24・25日の両日、東京・砂防会館1階「利根」にて下記のとおり開催いたします。

研修会では、地方分権改革、議会運営等の講演が行われます。

開催案内は、11月29日付けで、各市議会事務局へ送付しております。20年1月11日までに「出欠報告書」の返送をお願いいたします。

記

【1日目】 1月24日（木）

13:30 開会あいさつ

全国市議会議長会事務総長 大竹邦実

13:35 講演1「地方分権改革の動向について」

総務省自治行政局行政課長 幸田雅治 氏

15:20 講演2「議会事務局職員として」

旭川市議会事務局長 森下 元 氏

【2日目】 1月25日（金）

10:00 講演1「議会にかかる判例の動向について」

弁護士 橋本 勇 氏

11:30 昼食休憩

12:30 講演2「委員会運営の現状と課題」

衆議院事務局委員部調査課 大町 寛 氏

14:00 閉会

※なお、参加費は無料となっております。

行事予定

▽12月17日 全国自治体病院経営都市議会協議会Ⅱ役員実行運動（午後1時、全国都市会館）

▽1月22日 全国市議会議長会基地協議会Ⅱ正副会長・監事・相談役会（午後3時半、全国町村会館）

▽1月24日 建設運輸委員会Ⅱ正副委員長会議（午後3時、妙高市）

▽1月25日 地方行政委員会Ⅱ正副委員長会議（午前10時、安芸高田市）

議会提案で

自治基本条例を制定

飯田市議会(長野県)

飯田市議会では平成18年の第3回定例会最終日(9月21日)、「飯田市自治基本条例」を可決しました。この条例は、議会提案により検討を進め、19年4月1日から施行されたものです。制定に至るまでの本市議会の取り組みについて、ご紹介いたします。

①議会在り方研究会の設置

地方分権への大きな潮流のなか、本市議会では14年度に「議会在り方研究会」を設置し、議会の機能に対する検討に着手しました。検討の過程で、従来の消極的な監視・チェック機能にとどまらず、「政策提言機能・立法機関としての機能」の充実の必要性が改めて認識されたため、

②議会提案検討委員会の設置

改革の一環として15年度、「議会提案検討委員会」を設置。委員会の活動の方向性を定めるため、飯田市の自治の沿革と現状について検証を開始しました。検証を深めるにつれ、地域のコミュニティを大切に育んできた当市の姿が明らかに became しました。「地域の自治を涵養するための基本ルール」構築の必要性が認識されたため、自治基本条例の制定へと歩み出しました。

③市民会議の設置

さらに検討委員会は「自治基本条例の制定は、自治の担い手である市民・議会・行政が共に進める」ことが大切と判断。16年1月に「市民会議」の設置を議長に提言し、16年5月には全国初となる公募市民を中心とした「わがまちの『憲法』を考える市民会議」を設置しました。市民会議は、中間報告書及び最終答申書を16年末にまとめ、活動を

完遂しています。

④議員の改選など

17年4月、任期満了に伴う市議会議員の改選がありました。しかし直前の議会で、「市民会議の活動及び成果を次期に引き継ぐ」としていたため、改選後の検討もスムーズに進みました。また、この年に検討委員会を「自治基本条例特別委員会」に昇格させ、条文案案をまとめました。

⑤地区説明会の実施

17年から18年にかけて、条文案案に対する市民の生の声に触れるため、2度の地区説明会を開催しました。第1回説明会(17年10月)では約1800人、第2回説明会(18年2月)では約1400人の市民が集いました。特に第2回説明会では、全議員を2班に分け市内20地区に出向き▽受付▽市民説明▽質問への答弁――まで、全てを議員で対応。議会では質問する側の議員が、質疑を受け答弁する貴重な体験を得ています。

⑥パブリックコメント及びシンポジウムの実施

地区説明会で得られた意見



市民シンポジウムのもよう (18年7月開催)

には「市民シンポジウム」を開き、400人の市民とともに討議を重ね、意見集約を精力的に行いました。

⑦いよいよ採決へ

自治基本条例への意識が高まるなか、18年第3回定例会に議会提案として提案。会期最終日、全会一致により本会議で即決されました。採決に当たり「賛成討論を行うべき」との意見もありましたが、これまでの経緯から反対討論の生ずる余地がなく、賛成は全議員自明の理であったため取りやめました。全議員一致のもとで条文を策定してきた経緯から、それは至極当然の成り行きでした。

⑧むすびとして
取り組みを通じ、市民と議会との意識の乖離を防ぐよう努めた結果、多くの民意を反映できたことは、紛れもない事実であると思います。条例の制定過程において議会が中心となり、多くの市民の参加を得て時間をかけ意見を集約してきました。

立法府である議会の責務と云ってしまえば、それまでですが、多くの議会が自治基本条例を制定するのに苦労されるなか、基礎的自治体の議会として、分権時代に相応しい取り組みができたものと我々は総括しています。
(文・写真は議会事務局提供)

議会人事

▼議長

▽山陽小野田

▽川村博通(10・29)

▽村中徹也(10・30)

▽石原善春(10・31)

▽茨木久彌(11・1)

▽小森 仁(11・1)

▽坪内一由(11・1)

▽中野卓治(11・2)

▽段塚廣文(11・2)

▽西山八郎(11・5)

▼副議長

▽山陽小野田

▽佐井木勝治(10・29)

▽中村正志(10・30)

▽松尾 宏(10・30)

▽鈴木美智枝(10・31)

▽柴田好美(11・1)

▽森 昶(11・1)

▽安福英則(11・1)

▽宮川忠雄(11・2)

▽坂井 徹(11・2)

電話番号等変更

▽菊池市(熊本県)
FAX 0968(25) 2333
(議会事務局直通)

※電話番号は変更なし